

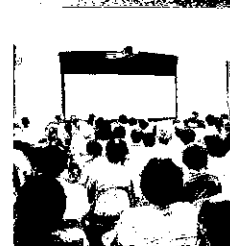


施設の管理運営に関する



施設計画書

あしや市立美術館



2 14  
~



20 8

## 1. 管理運営の基本方針

### a Promise ～誓い



- ・『「文化」こそが芦屋の個性である』と私たちは考えます。
- ・その「文化」に市民がより親しみ、ともに発展させ、次世代に継承していくためのたいせつな「拠点」として、私たちは、芦屋市立美術博物館を想い、誠実に運営してまいります。

#### 文化・芸術・伝統が会うまち-芦屋

このまちには特有の芦屋の文化が根付き、市民は日々教養を高める機会に恵まれています。

これほど早くから国際的な交流が多く、歴史的遺産があり、文化的な土壌がある場所は、関西、あるいは全国を見渡しても、特筆すべきことと考えます。

- それらを活かし、より発展させること。
- 本当の芦屋を、本来の芦屋を市民がより大切にしていくこと。

私たちは「芦屋市前期基本計画」に基づいて、文化を芦屋の個性・魅力と位置づけ、以降に記載する方針に沿った運営を誠実に履行し、美術博物館が、「すべての市民が、そして市民のみならず、すべての人々が」いきいきとした芦屋文化に出会う場所として愛され、たいせつな市民の場所となるように、

芦屋市立美術博物館の使命を果たし、最高のサービスと芸術文化を発信し続けます。

- ① 芦屋の伝統や歴史、遺産が市民、次世代に語り継がれていく活動を促進します。
- ② 市民が幅広い知識と教養を育む機会を充実させます。
- ③ 日頃から芸術文化に気軽に親しめるように芸術文化発信の拠点とします。

芦屋

化

## 1. 管理運営の基本方針

### (1)管理運営の基本方針

当グループは、3年間の運営実績をふまえた上で今まで以上に魅力ある芦屋市立美術博物館を市、市民、すべての利用者、関係団体、指定管理者ならびに関わるスタッフ一同で創り上げてまいります。

そのための当グループの運営基本方針は、貴市が定める「芦屋市立美術博物館の管理運営に関する基本方針」を十分に理解した上で、より美術博物館運営に即したものとし、下記の6つと定めます。

#### 芦屋市立美術博物館 運営基本方針

① 市・市民・利用者と協働して美術博物館の運営を担い、常にレベルアップした運営に取り組みます。

・市はもちろん、市民、利用者、学校等と、これまでに築いた関係をより深め、地域貢献活動にも積極的に参加し、“地域とともに歩む施設”を確立していきます。

② 多くの市民・利用者に来館いただけるよう、公平平等に配慮した施設有効活用を図ります。

・利用者のニーズを十分に把握し、サービス向上に活かしてまいります。すべての市民・利用者が便益を享受できる施設運営を心がけます。

③ 関連する法規・法令、個人情報保護、守秘義務の遵守と、環境への配慮に努めます。

・公の施設の代行者として責任を持ち、市が定める管理運営に関する基本方針に基づき、コンプライアンスを遵守した運営に努めます。

④ 利用者の安心・安全を第一に考え、危機管理対策に努めます。

・あらゆる世代の方が利用者であることをふまえ、具体的事象と対応を想定し、リスクマネジメントに基づいた未然防止策を講じます。

⑤ 無駄な経費は運営努力により縮減し、健全で継続的な運営サイクルの構築に努めます。

・指定管理料が市民の税金であることを理解し、これまで以上に無駄を省いた効率的な運営に努めます。

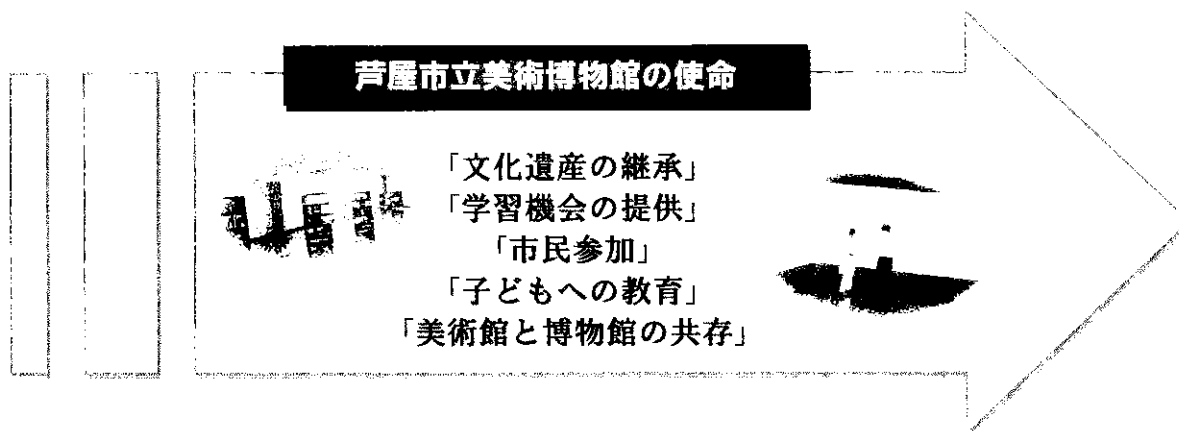
⑥ 3年間の運営実績と当グループのノウハウを最大限に利用し、利用者の拡大に挑戦し続けます。

・3年間の運営実績により築いた様々な関係性をより良い運営に活かすとともに、当グループのプロフェッショナルとしてのノウハウを発揮した運営をおこないます。

## 1. 管理運営の基本方針

### (2)方針

市の定める「芦屋市立美術博物館の使命」ならびに、当グループが果たすべき使命の達成に向けて、前述の6つの運営基本方針に基づいた運営を誠実に履行してまいります。



これらは、当館が市の施設として果たすべき役割、そしてそのためにあるべき姿と方向性を様々な観点から示しているものです。以降は、当グループが今後継続的におこなっていく具体的な運営方策について、それぞれの「使命」に則り、記載してまいります。

#### ①芦屋市立美術博物館の使命について -解釈-

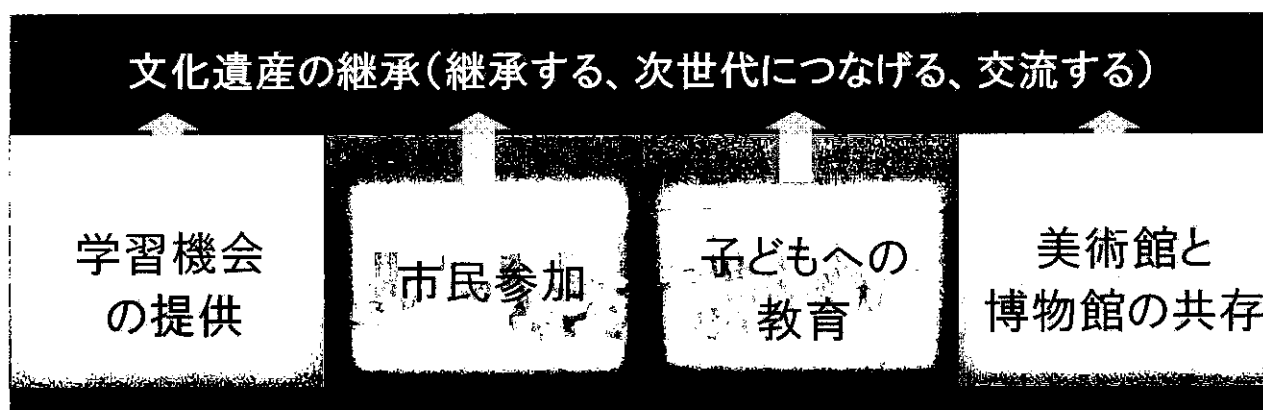
当グループは、3年間の運営実績の中で、上記の「使命」をひとつひとつ丁寧に達成すべく、尽力してまいりました。「3年間を通してテーマ性を持った展覧会の開催」、「コレクション展の継続実施による、芦屋文化の研究と継承」、そして関連する様々なジャンルに及ぶ「教育普及事業、講座・講演会の実施」などに努め、そのデータを蓄積してきた成果は、当館および芦屋市にとっても一つの財産であると考えております。

この成果の蓄積は今後も行ってまいります。次期5年間においては、特に一つ目の「使命」として挙げられる「文化遺産の継承」を重要な目的とし、運営に励んでまいります。

それは、この『文化遺産の継承』-「継承する」「次世代につなげる」「交流する」というサイクルは、二つ目以降の4つの使命-『学習機会の提供』『市民参加』『子どもへの教育』『美術館と博物館の共存』を幹として、芦屋市立美術博物館が発揮すべき大命題であると認識しているからです。

- 「学習機会の提供」に資すること、
- 「市民参加」による施設運営を適正に行うこと、
- 「子どもへの教育」を推進し次世代を育成すること、
- 「美術館と博物館の共存」を図り、生涯学習施設として幅広い文化的知識を発信すること

を目的とし、具体的方策を積み上げた運営を履行することにより、当館が、『市の中の美術博物館』という存在意義を持ってたいせつな拠点として位置づけられ、それが「文化遺産の継承」のための基盤となると考えております。



## 1. 管理運営の基本方針

### ② 具体的方策について

#### 文化遺産の継承

##### 継承する

これまで、主な収蔵品である「具体美術協会」の作品を『具体誕生』『没後40年 吉原治良』『具体躍進』『具体円熟/終焉(※平成25年1月11日～)』とシリーズにて、また、芦屋ゆかりの画家である小出楯重を中心とした作家の展覧会もコレクションとして継続的に展示してまいりました。これら貴重な作品の価値をより多くの方に広く理解していただけるように、それぞれの作品をひとつひとつにフォーカスするのではなく、近代美術の流れの中の一つの位置づけとして捉え、これからは様々な視野から展開し、展示してまいります。

また、歴史部門においては、芦屋の歴史について古代・中世・近世・近代までを継続的なテーマのもとで展覧会を開催するなど、地域文化を大切にするための繋がりを大切に展示してまいりました。今後も、「昔の暮らし」展など、子どもが身近に見学しながら学べる展示を毎年実施し、「わかりやすく」「丁寧に」伝えてまいります。

これら貴重な歴史資料は、より充実した展覧会内容として披露するべく、市の学芸員とも定期的に協議しながら整理していく取り組みを行っております。



[昔の暮らし展 ギャラリートーク]

##### 次世代につなげる

ホスピタリティ溢れる親しみのある施設作りで、市民に気楽にご来館いただける施設を目指します。そして引き続き、伊勢幼稚園その他の幼稚園、小学校、中学校等の教育機関と連携し、「子ども向けギャラリートーク」や「出前授業」「ジュニア学芸員の育成を行うなど、「子どもたちが芸術・文化に触れる機会」の充実を図ってまいります。

トライやるウィーク(2校の中学校で毎年実績)、学芸員実習(年1回の受け入れなどをより積極的に行いました。今後も美術博物館を身近に感じ、興味を持ち、理解してもらえるように努めます。



[幼稚園の団体来館]

展覧会を充実し、次世代につなげるため、展覧会関連事業(25回)講演・講座(10回)ワークショップ(11回)そして、当館特有のイベントである「アートバザール」や、芦屋の歴史を語り継ぐ茶話会「こころの中の芦屋を語ろう」、「東日本大震災追悼コンサート」などのその他事業(7回)〈以上H.24実績〉を実施してまいりました。今後も3年間の実績を踏まえ、地域の伝統歴史が次の世代に語り継がれていくように、実施していきます。

##### 交流する

当館にさまざまな年代の人々が気軽に集い、文化的交流が活発となるよう様々な講演・講座を設け、市民に丁寧な広報活動を心がけてまいります。そのためのアンケート調査、モニタリング等も改善を重ね、より市民目線の「学びの空間」を創出します。同時にボランティア組織を拡充し、研修会等で人材の育成を図ります。

市内外に問わず、企業、地域団体との協同、自治会等とのネットワークづくりと連携を強化します。市内の団体(芦屋婦人会、芦屋ユネスコ協会、商工会議所、市民センターなどその他公共施設、伊勢町自治会、保育所、特別支援学校、その他の団体等)とは3年間で築いた関係性を大切に、引き続き連携を深め、共に成長・発展できる関係を構築します。



[自由な発想で描く絵画教室]

## 1. 管理運営の基本方針

当館の大切な使命のひとつは、市民、そして利用者に「自由な学びの場」を提供することだと考えます。

ここで教養を得た人々が、暮らしに文化・芸術・伝統の彩りを添え、生き生きと人生を送ること—他の多くの社会教育施設とも連携しながら、市民にとってひとつのたいせつな場所になるために、活気ある展覧会の実施はもちろん、これまで以上に多様なワークショップ・講座・講演・研究会・見学会・体験型イベント等の充実を図ります。また、当館の設置目的に沿った講義室・体験学習室の利用促進を積極的に押し進め、より多くの市民が参画できる学習の場の提供に努めます。

これまで、芦屋文化に根付いた「紅茶」「洋菓子」などに関わる食育講座や、絵画教室、ミュージアムコンサートなど、幅広く市民に参加していただける講座・イベントを立案、実施してまいりました。それらの場が参加者の想像力を育み、日常の中に文化の楽しみを見出し、人々の心を豊かにするための機会になればと考えております。

今後も、展覧会に来ていただいた方が、より発見する気持ち、探求する気持ちを持つことができるような事業を提供するとともに、また、別の目的で当館に立ち寄っていただいた方が展覧会や、芦屋の文化・芸術・伝統に興味を持ち、それを次世代に伝えていくような循環を作りだし、市民の文化活動を活性化させるべく、尽力してまいります。



[まが玉づくりワークショップ]

\*人々の自由な発想を大切にし、あらゆる人の感性が芸術の芽となるような創作活動を推進します。

過去のイベント例:「没後40年吉原治良展 ワークショップ」  
吉原治良作品をヒントに、大きな紙にペンキで参加者が自由に絵、模様を描く

\*音楽・美術・歴史への学びなど様々な芸術文化から、視野を広げることができる体験型活動の展開に取り組みます。

過去のイベント例:「アートピクニック vol.2 呼吸する美術関連イベント 黒松ウォッチング」  
芦屋の風景、特に黒松等日常の風景から参加者それぞれにとっての美術を見つけ出す



[親子の鑑賞ツアー]

## ③市民参加

より多くの市民が関わるたいせつな場所となるために、「多くの市民が参画して運営に携わり、また多くの市民が施設を利用する」場所にすることが使命であると考えます。

そのためには、運営主体である職員全員が、市民の「支援者」であることを認識して業務にあたることを徹底いたします。市民の税金で支えられる当館の運営は、市民のニーズを十分に把握し事業を展開するとともに、有効な広報活動を実施し、都度振り返りながら確実に進化していかなければなりません。

当グループは、3年間の運営実績で培った市民・地域団体・学校等との信頼関係をより拡充しながら、今後は更に多くの市民と協力し合い、芸術文化・伝統や歴史を幅広く伝えてまいります。

\*市民ボランティアを拡充し「市民が支える美術博物館の運営体制」  
づくりに力を入れてまいります。

\*市民が、市の財産である貴重なコレクションはもちろん、他の芸術文化とも新たに「出会い」、幅広い視野・教養を養うことができる機会を創出するための事業展開を行います。



[毎回100名以上が集まるミュージアムコンサート]

## 1. 管理運営の基本方針

### 子どもへの教育

子どもたちの豊かな感性を伸ばし、個性を育み、将来の文化を担う人材を創出することは、当館の使命と考えます。

身近な場所である「文化ゾーン」に美術博物館があるこの芦屋の恵まれた環境を最大限に活用できる運営を目指し続けます。当館では平成24年度から教育委員会のご協力を得て、市内の小中学校に対して展覧会のご案内の場を広げていただくことができました。

子どもたちが集い、身近な場所としての美術博物館で、「ほんものに出会い、感動し、想像力を育み、『こころの成長』ができる」、そんな施設づくりを目指します。

\*各幼稚園にご案内し、事前打合せの後、見学会、庭の利用等で利用していただきます。特に隣接の伊勢幼稚園には定期的な展覧会を見学して頂き、そのための解説をし、庭遊びを含めて一日を楽しんでいただくような連携を図っております。

\*ワークショップは、子ども向け講座(ポスター製作、夏休み宿題絵画教室、立板古作り、芦屋歴史マップ作り、能楽体験教室)等を年間を通じて実施してまいりました。今後も「美術」「歴史」それぞれの分野に偏ることなく、子ども、そして親子で参加していただける事業を実施します。



[マンガ家を招いての講座]

\*また、当館に親しんでいただいた子どもたちを中心に、子どもたちでつくる組織(ジュニアボランティア、ジュニア学芸員)の育成に発展させていきたいと考えております。

\*トライやるウィーク、学芸員実習の受入などを今後も積極的におこないます。

\*学校団体での来館については、各学校のご希望に沿って、「講義」「ギャラリートーク」を実施する、事前に「出前授業」を実施するなど、より理解が深まる機会としてまいります。今後は、館からの企画・提案を積極的に推進し、各小・中学校で、芦屋の歴史・美術を継続して生徒に理解してもらえる活動を実施します。



[学校の団体鑑賞]

「美術博物館」という名称の通り、当館は「美術部門」と「歴史部門」のふたつのミュージアム機能を持つことが特徴であり、両部門の展覧会をバランスよく開催し、市民に等しく学んでいただけるための場所とすることが、文化の発展と継承にとってのメリットであり重要な使命であると考えます。

\*平成24年度に実施した歴史部門の展覧会「近代の芦屋」展では、時代に沿った絵画を同時に展示し、美術ファンの来館者にも好評を得ました。古代～現代に至る芦屋の歴史文化、研究成果を伝え、発信し続けることはもちろん、「歴史部門」と「美術部門」の融合を図ることでのシナジー効果で、より多くの方にそれぞれの良さも知っていただき、来館していただけるような展覧会への積極的発展を目指してまいります。



[絵画を歴史資料とともに展示]

\*また、今後は美術部門だけでなく、歴史部門の展覧会情報も幅広く発信していくための広報案を検討いたします。



[貴重なコレクションを時代背景とともに展示]

## 1. 管理運営の基本方針

### (3)管理運営を希望する理由

芦屋市立美術博物館は、「美術及び歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供し、その教養の向上を図り、もって市民文化の発展に寄与する」ことを目的に平成3年に開館しました。人口9万人都市としては珍しい、住宅地の中にある美術博物館は、市ゆかりの美術家を中心に、近代・現代の作品や芦屋の自然・歴史に関する文化財・考古資料を多く保存しており、文化活動の発展に寄与しております。

当グループ代表企業と構成企業は、平成23年の指定管理者制度導入より現在まで、市より指定管理者として指定をいただき運営管理を行ってきており、その設置目的と現実的な運営における問題点、これからの課題を十分に理解していると自負しております。また、運営実績に基づいた具体的な問題解決のための方策を有しており、その指針を当館の運営に活かし、今まで以上により良い施設とすべく、管理運営を希望いたしました。

#### 現状認識と課題



当グループは世界的に貴重な収蔵品を次世代に今ある形のまま遺し伝えて行くことは、美術博物館の重要な使命と考えております。しかしながら、施設は設立から約20年が経ち、自然な経年劣化を伴い、貴重な作品の保存環境が損なわれてきております。

当グループは指定管理者として管理運営をお預かりする中で、こういった環境の整備と収蔵品ならびに展示作品の取り扱いに細心の注意を払ってまいりました。今後も引き続き、これまで以上に貴市との連携に努め、大切な作品の保護に尽力してまいります。当館はデリケートな作品も多く、施設の状況と作品の状態をきちんと理解し、保護につとめられる人材・ノウハウを持ち、継続的な運営を行う体制づくりが必要と考えております。

また、「具体」をはじめとする作品や資料等は、直近では東京都現代美術館、西宮市大谷記念美術館、国立新美術館、ロサンゼルス現代美術館、シカゴ現代美術館、グッゲンハイム美術館等に貸出した実績も多数あり、改めて当館所蔵の作品の価値が世界的に高い評価を受けていると感じざるを得ません。そして、平成24(2012)年4月1日に文化財として指定された「芦屋川の文化的景観」が育んだ歴史は、古代より近代に至るまで、新たな歴史的事実を投げかけてくれます。風光明媚な土地柄であることから、和歌にも度々登場する芦屋独自の文化が生み出した歴史的遺産は、近辺の美術館博物館の注目を集め、阪神間モダニズム関連資料を中心に、西宮市大谷記念美術館に貸出した実績もあります。こういった作品・資料(史料)・歴史の価値と、「それがわがまちにある」ということを市民の誇りとすべく、わかりやすく、丁寧に、積極的に伝えていく使命が美術博物館にあります。

市の文化ゾーンという立地にありながら、市民が「美術博物館の存在を知らなかった」という声もアンケートで多数見受けられました。芦屋市立美術博物館が、まず市民にとって「あたりまえの」場所であること。そしてそのためには、貴重な作品を適切に公開するとともに、目的性を失わないながらも、ニーズに即した「来館していただける、来館したいと思える」展覧会・関連事業の実施に尽力し、市民ならびに来館者が文化に出会い、発見し、体感していただける施設づくりに挑戦し続ける必要があります。



# 1. 管理運営の基本方針

## 申請団体について

### 小学館集英社プロダクション

### ShoPro

「教育」「エンタテインメント」「社会貢献」をテーマに、幅広い層に対しての『サービス』の普及事業に努めています。教育とエンタテインメントの融合“エデュテインメント”の創造と提供を事業の根幹に置き、40年以上にわたる教育事業、時代のニーズに合わせた保育事業、常に新しいエンタテインメントを国内外問わず提供し続けるメディア事業等、多岐にわたる事業展開を実績としています。

#### ① 事業運営のプロフェッショナル

小学生の英語教室からスタートした教室運営事業は、40年以上にわたり全国で展開してきており、乳幼児からシニアにまで幅広い世代に対して業務の範囲を拡大してきています。また、乳幼児対象のベビーシッター業、託児施設・病院内保育所、公的機関や企業との連携による認可・認可外保育施設も運営しています。大人対象の事業としては、英会話をはじめとした実用的なコースの講座を設け、好奇心を育み、知識を深め、技術や経験を身に付けることができる教室を運営しています。

さらにメディア事業では、イベント運営を行うプロモート事業をはじめ、キャラクターの著作権管理を行うライセンス事業、その他にも通信販売事業、テレビ番組の企画制作事業など幅広い分野での展開を実施しています。

その他、30年以上に亘るボランティアの育成事業や『江戸文化歴史検定』などの取り組み実績があります。このように、子どもから大人までを対象に、幅広い事業運営の経験から、多くの市民に受け入れられる事業運営を実施していきます。



【保育施設】








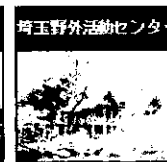
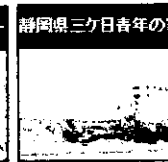











【大人向け講座】



【ボランティア】

#### ② 指定管理者としての豊富な実績

指定管理者制度導入以降、全国で生涯学習館・児童館・美術館・図書館・生涯学習館・青少年交流施設などの公的施設運営を受託しています。教育事業のノウハウを基盤として、質の高いサービスを提供しています。また、運営施設で好評であった講座・イベント等に関しては、パッケージ化をして他施設と連動を図り、共有、更新するとともに本部内他事業部と事業連携をはかることで、講座・イベント等の内容のバリエーションや、対象年齢の拡大にも努めてきました。このような実績を基に、その施設にあった、そしてその時々々のニーズにあった充実した講座・イベントを提供していきます。

						
						
				※オートリゾート八雲(PE) 岡山県立美術館(業務委託) 中央区環境情報センター(業務委託) 荒川治水資料館(業務委託) (他) 稲見町放課後児童クラブ		

## 1. 管理運営の基本方針

### グローバルコミュニティ

グローバルコミュニティは近畿圏を中心に建物管理を行っています。30年以上にわたる建物管理のノウハウを活かし、「安心・安全」、「快適性」、「法令順守」を重視して管理運営を行ってきました。

また、「地域密着」の管理を目指し、近畿圏では7拠点を展開し、芦屋市内では43棟の建物管理実績を有しています。

「人・街・暮らしの価値共創グループ」である大和ハウスグループの企業として、時代のニーズに対応した建物管理を実践しています。

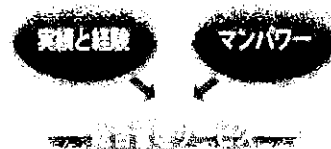
#### ① 建物管理のプロフェッショナル

グローバルコミュニティ(株)はビル、マンションの管理会社として創業した(株)KBSシラカワと第一建物管理(株)が前身の企業です。2012年3月に(株)ダイワサービスの出資を受け、大和ハウスグループの一員となりました。

当社の30年以上の管理実績はデータとして集積され、中長期的視野に立った質の高い管理サービスを可能としています。

近年、建物のライフサイクルマネジメントに基づいた建物管理の必要性が広く認識され、高度化・多様化の一途をたどるニーズに対して、建物管理による品質の維持・向上や、環境への対応、IT化建物の管理、資産価値の向上、さらには個人情報保護など、最適な建物管理の実施に努めています。

また複雑化する建物管理のニーズに対し、確かな技術に根ざしたきめの細かい迅速な対応を実践しています。そのために一級建築士、建築物環境衛生管理技術者、ビルクリーニング技士をはじめとした有資格者を各セクションに配置し、建物管理のプロフェッショナルとして日々の建物管理業務に取り組んでいます。



#### ② 管理会社としての豊富な実績

グローバルコミュニティ(株)は、ビル、マンションの管理会社として建物管理の受託数を着実に増やしてきました。近年ではマンション、ビルばかりでなく、商業施設や物流施設をはじめ病院や老人介護施設の管理も行っており、新規事業分野でのノウハウの構築はもちろん、時代のニーズに対応した建物管理を通じて心豊かに生きる暮らしと社会の実現に貢献しています。

また、指定管理者制度の導入案件についても、建物管理のプロフェッショナルとして、近畿圏を中心に積極的に参画していきます。

#### 【芦屋市内管理物件例】



# 1. 管理運営の基本方針

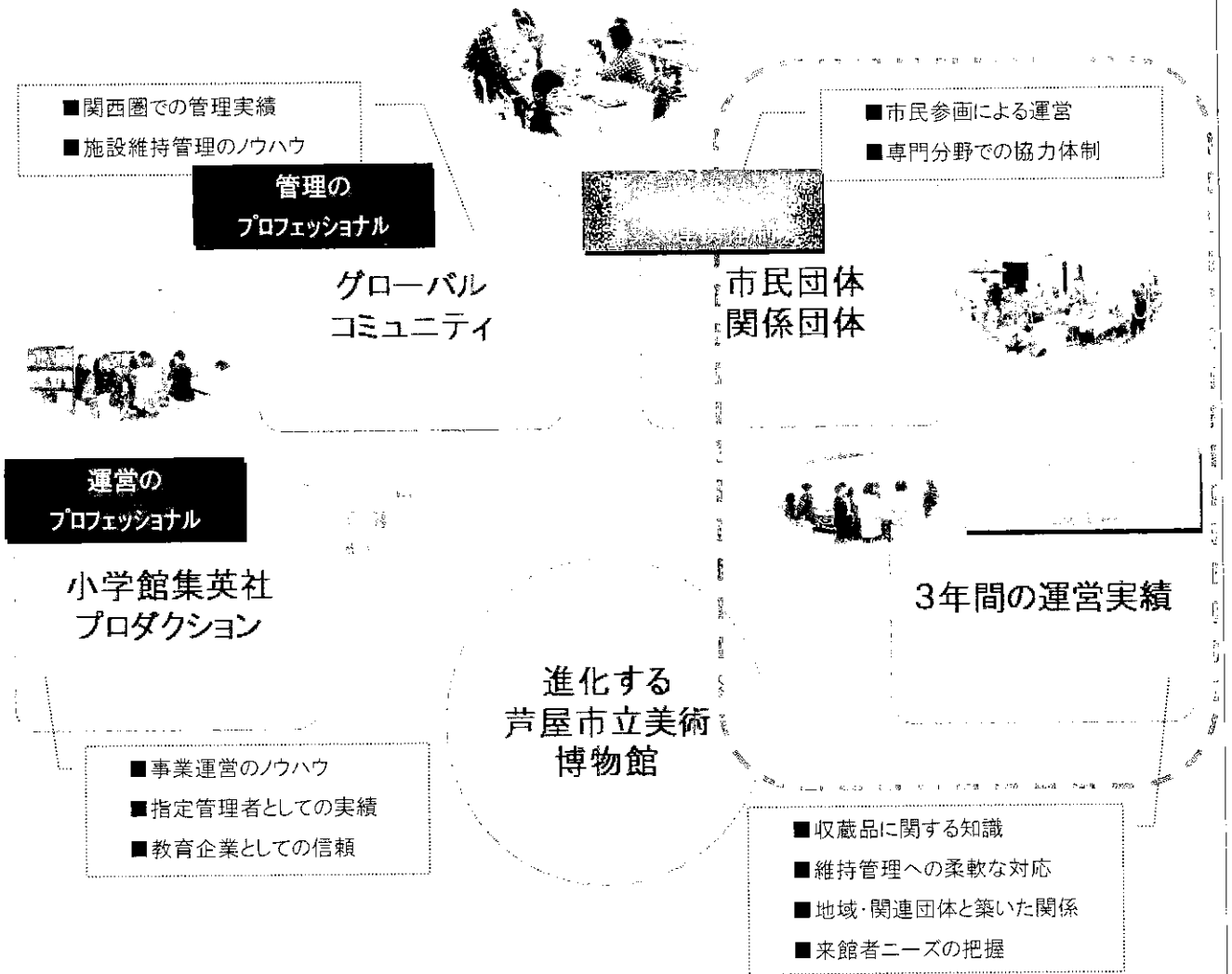
## 新しい美術博物館の運営体制について

今回、当グループは、「施設を確実に運営できる」構成員と組織の再構築に当たり、運営業務を代表である「株式会社 小学館集英社プロダクション」が、施設設備の維持管理業務を「グローバルコミュニティ 株式会社」が担当する構成といたしました。また、「市民とともに作る美術博物館」とするために、運営実績の中で培った地域との関係性を最大限に活かし、今まで以上に多くの市民団体と連携し、協力を仰ぐ体制を構築いたします。



代表企業の小学館グループは、「幅広い世代への文化・教育の発信をし、豊かな社会形成・人格に貢献すること」を社会的使命としております。芦屋市立美術博物館の運営を通じて、芦屋市のひと・まちと文化を繋ぎ、元気になることは、企業の使命を果たすことに通ずると考えております。

また、3年間の運営実績を経て、このたび再度維持管理業務にあたるグローバルコミュニティは、当館の管理に関する知識・ノウハウを十分に有しており、様々な事象に対応することができます。それぞれの分野が総合的リスクを最小化できるスキームとなる強みを最大限発揮し、「地域の中で」「安全に」「利用者に喜んでいただける」施設づくりを目指します。

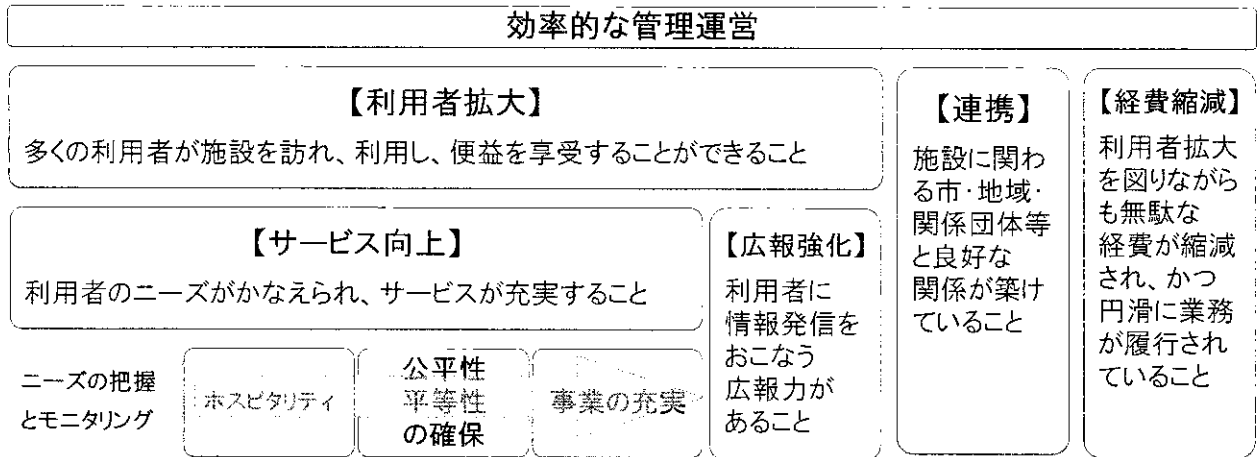


## 2. 施設の運営計画書

### (1) 効率的な管理運営について

当グループは、前項で述べた芦屋市立美術博物館 運営基本方針の達成に向けて日々努力し、指定管理者として誠実に運営業務にあたることをお約束いたします。以降は、運営履行のための具体的な方策について詳述します。

公の施設を運営することにおける「効率的な管理運営」とは、以下に挙げる要素が十分に達成されており、それぞれの柱となって相乗効果を生み出している健全な運営状態であることだと、当グループは考えています。



当グループは、【利用者拡大】を追求しながらも業務の水準を保ちつつ、市・地域・関係団体との【連携】を図りながら、無駄な【経費縮減】、ならびに環境保護に努めます。

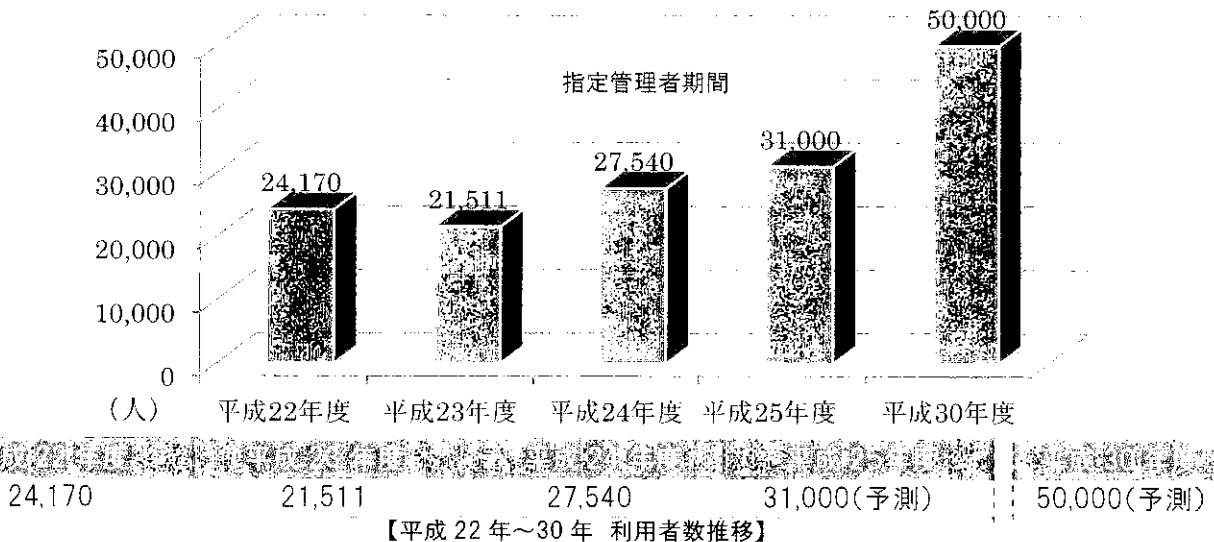
また、【利用者拡大】のために、利用者のニーズを把握し、利用者が「また来たい」と思えるような施設づくりを心がけ、【サービス向上】を追求し続けます。また、まだ施設を訪れたことがない方にも利用していただけるように、【広報強化】にもより一層力を入れてまいります。

さらに、【サービス向上】には、上記に記載するような分類をはじめとした、様々な視点からの運営努力が存在すると考えます。利用者視点を大切に、ニーズや施設の運営状況について主体的/客観的評価を丁寧に精査し、日々の運営に活かしてまいります。

#### ① 利用者拡大について

当グループは、平成 23 年度より市から指定管理者として選定していただき、約 3 年間にわたって当施設の管理運営を行ってまいりました。受託時以降、事業準備や体制の整備を十分に行った結果、年々利用者数を増加させることができ、平成 24 年度利用者数は指定管理者制度導入以前(平成 22 年度)対比で 3,370 名のプラスとなっております。そして 3 年目(平成 25 年度)は、そこからさらにプラス 3,640 名と予測しており、提案達成数の 30,000 名を現実化する見込みとなっております。

今後5年間に関しては、平成 30 年度には 50,000 名を達成すべく、引き続き尽力してまいります。



## 2. 施設の運営計画書

### ア サービス向上について

近年、利用者の求めるものは多種多様になり、利用者は自らの要求を満たすために、「施設を選ぶ」ことができる豊かな時代となりました。公的施設においても、利用者のニーズへの柔軟な対応は重要であると考えます。

ただし、やみくもに利用者の声に迎合するのではなく、変革できるものと守らなければならないルールがあります。施設運営を長期にわたって健全に運営し、持続可能な体制づくりのため、市とも相談のうえ、芦屋市立美術館のあるべき運営に適合した利用者サービスの向上を図ります。

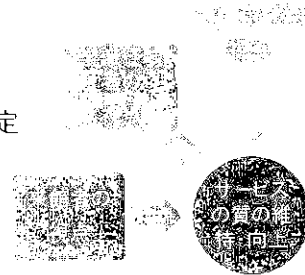
#### [1] ニーズの把握とモニタリング

当グループはこれまでの3年間、利用者の声を大切にされた運営を心がけてまいりました。今後も引き続き施設に対して積極的に寄せられる意見・要望の収集・共有・対応はもちろん、「利用者ニーズに即した運営やサービス提供がおこなわれているか」や「施設の設置目的に基づく有効性が表れているか」などの指標に即したモニタリングを様々な視点から実施してまいります。

よりよいサービスを市民の皆様を提供するため、当グループは、スタッフが日々実施する日常的なモニタリングのみならず、「来館者の視点」「芦屋市民の視点」「芦屋市の視点」「学識経験者の視点」「指定管理者の視点」という5つの視点に基づくモニタリングを行います。

「来館者の視点」「芦屋市民の視点」においては、利用者アンケートや利用者との日常的なコミュニケーションにより、意見の収集を図ります。また、「芦屋市の視点」においては現在のモニタリングシートの提出に加え、監査を行う場合には全面的に協力し、そこで得られた評価を運営に反映させます。更に、現在、市の開催にて年2回行っている運営協議会では、学識経験者を含めた様々な視点による貴重なご意見を頂戴し、検討事項は直ちに市とも協議を行います。

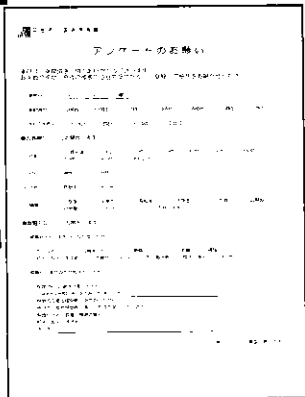
館職員を含めた「指定管理者の視点」については、『様式3(3)会議体』の項に記載した日々の会議体を含め、定期的な自己評価を行います。



施設内に設置し自由に記入、投函していただいていたアンケートは回収率を上げるため、平成24年度にはすべての観覧者に配布する形に変更いたしました。また、実施イベントによっては今後の内容を検討するため、イベント終了後に別途アンケートを配布・回収し、今後の運営に活かしています。内容についても定期的に見直しています。

平成24年度アンケート集計では、展示の「内容」「方法」「解説」「文字」「順路」について、約8割の方から「大変満足」「満足」という回答を得ております。これらは年間集計ですが、開催展覧会・イベントによっては検討すべき評価が表れることもあるため、館職員・担当者が随時確認し、協議しています。

【平成24年度 アンケート集計より】



【アンケート用紙】

「大変満足」、 「満足」の回答	88.1%	88.3%	84.8%	80.1%	74.1%
--------------------	-------	-------	-------	-------	-------

#### ～ 来館者の声 抜粋 ～

- ・具体展、アトリエ展とも内容豊富。入場料が安いと思うくらい。所蔵展を続けて下さい。
- ・印象深い作品が多かったので何度も見たい空間でした。無音の中に音を感じます。
- ・芦屋にこんなにたくさんの美術家がいらしたことをはじめて知った。
- ・身近なものにアートを発見してみようという気持ちが生まれました。
- ・文字を読むのが大変なので音声案内があるとありがたい。
- ・展示室を明るくして欲しい。

## 2. 施設の運営計画書

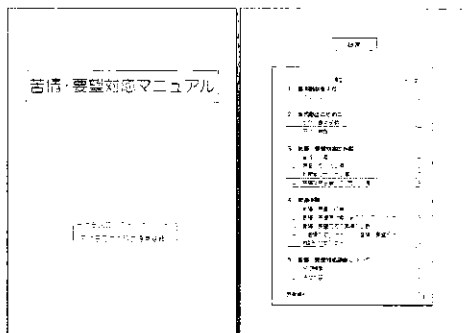
その他、当施設は住宅地にあるという立地上、ご近所の方や市民のご意見をいただく機会も多く、それらも貴重なニーズとして職員間で共有し、誠実に対応するとともに、運営に役立てています。

苦情を未然に防ぐ取組、体制作りはもちろんですが万が一、発生した場合には、真摯に受止め、利用者の立場から直ちに的確な対応を行うとともに、同様のトラブル発生を防ぐことを目的に職員間の情報共有を徹底し迅速に再発防止策を確立します。

単に解決・処理すればよいという消極的な受け止め方だけではなく、利用者からの貴重なアドバイス、生の声、率直な意見として積極的に受け止めて、円満解決に努めるとともに、これを施設運営にフィードバックして苦情・要望原因の追求、排除、再発防止、さらには利用者満足度の向上策として、施設運営の改善に役立てます。また、当グループはこれまで多くの類似施設の管理運営に携わってきた実績や現場で日々蓄積しているノウハウを活かしながら、より高いサービスレベルを追求し、顧客満足度を高める取り組みを行っていきます。

トラブルやクレームが発生した場合、責任者をトップに、即座に初期対応を行なうとともに、芦屋市に速やかに報告・連絡します。また、ミーティングや研修会を通して事例を確認し、施設的全職員が同様の見解を持って、適切な対応を行うべく教育・訓練を実施します。

当グループでは、苦情対応マニュアルの整備及び定期的な研修を実施しています。研修や日常業務での変更点が生じた際には、必ずそれらをマニュアル内にも反映させます。実践的なスキル向上を目指した内容とし研修の質と充実を図ります。



[苦情・要望対応マニュアル]

(2) 苦情に起因した事例

Table with 2 columns: 苦情 (Complaint) and 対応 (Response). It lists various complaint types and the corresponding actions taken by staff.

(3) 利用者から起因した事例

Table with 2 columns: 苦情 (Complaint) and 対応 (Response). It lists various complaint types originating from users and the corresponding actions taken by staff.

[苦情・要望対応マニュアルより]一部抜粋

所定のモニタリングシート(四半期毎)や事業報告書(年に一度)はお知らせいただいた期日を厳守し、速やかに提出させていただきます。

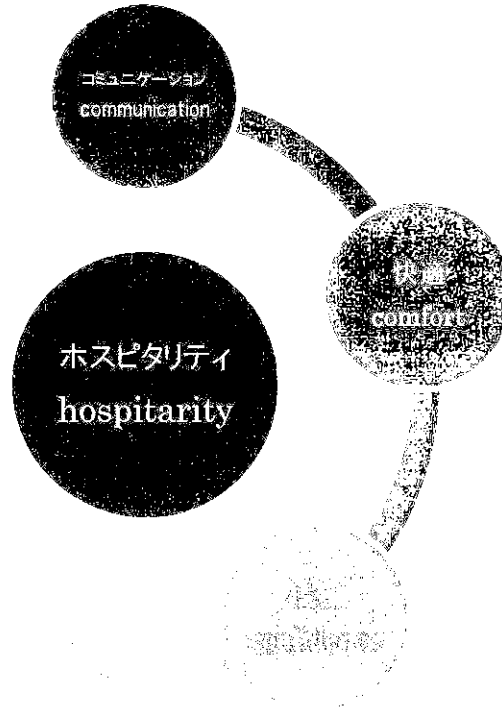
また、今後監査が実施される場合は必要書類、資料等の対応について全面的な協力体制をお約束いたします。監査・モニタリング後に指導・指示をいただいた場合は代表企業、構成企業の連携のもと、迅速に改善いたします。

現在月に2度程度実施していただいている「管理運営調整会議」に関しても、これまで通りご意見を頂戴するとともに、指定管理者側からの意欲的ご提案等をお伝えし、協議させていただければと思います。

## 2. 施設の運営計画書

### [2]ホスピタリティと公平性・平等性の確保

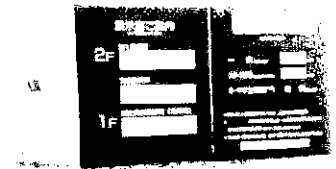
当グループは、利用者が「過ごしたい場所」「もう一度訪れたい場所」と感じていただけるよう、利用者視点からの施設づくりを考えてまいります。当施設が、「すべての市民・利用者が等しく気持ち良く利用でき、気軽に立ち寄ることができる場所」として市内に定着し、芦屋市活性化の核となるように努めます。



職員は、常に上記の5つの“C”(「ふれあい」「コミュニケーション」「快適」「信頼」「文化」)を意識しながら、利用者の方と接することを心がけ、すべての職員が、利用者のあらゆる要望に応えられる「コンシェルジュ」となるよう努めます。

また、当施設が「公共の施設」であることを十分に理解し、公平・平等な利用を確保します。引き続き、施設の設置目的をふまえたうえで、万人が不便を感じないで目的を達成できる環境整備を目指します。

以降は、具体的な取組について、「対応、設備、制度」の3つの観点から列記いたします。



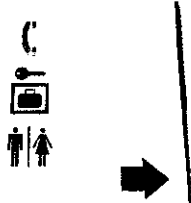
### 対応



- ・計画的な職員教育により高齢者・障がいのある方、外国人、人権などへの理解を深め、“ユニバーサル・サービス”を提供します。案内や介助等で親切・丁寧な対応を心がけます。本施設は特に高齢の利用者も多いため、できるだけ「わかりやすい言葉ではっきりと丁寧に」お伝えできるよう、職員間で徹底してまいります。また、館内は定期的に職員が巡回し、迅速な対応に努めております。
- ・利用者のニーズに合わせて、様々な備品を整備し、貸出をおこなってまいります。  
例) オペラグラス、車いす、筆談用文具、レポート作成用のバインダー、辞書等
- ・外国人の利用者のために、英語表記の注意書きをご用意しております。
- ・施設からのアクセス、バス時刻表、タクシーの番号等を記載した案内用紙をご用意しております。また、ホームページ上でも時刻表等をダウンロードできる様に整備します。
- ・職員は定期的にマナー・苦情対応研修を受けるとともに、展覧会に関する知識等も同レベルで対応ができるように、レクチャー会を設けております。

## 2. 施設の運営計画書

### 設備



- ・展覧会に応じて施設内に誘導サインを設置しております。今後は、ピクトグラムを導入や弱視の方、高齢者にも読みやすい配色・表記の工夫を図ってまいります。
- ・館内外に実施展覧会、次回展覧会の告知等を設置し、一目で確認できるよう工夫しております。
- ・利用者が安心して利用できる様に、カーテン付き授乳室や清潔なおむつ交換スペースを整備しました。
- ・危険箇所には注意書きなどを設け、館内設置備品の個所を随時確認しております。
- ・利用者がゆっくりとご自身のペースで展覧会を楽しんでいただけるように、展示室には多く休憩スペースを設け、広報物や図録を設置するなど、滞留時間を大切に考えております。

### 制度



- ・等しく利用者が気軽に訪れ、参加できる事業の展開や、申し込みの受付方等の工夫により、平等利用の確保を図ってまいります。
- ・講義室や体験学習室の利用については新たに基準を設け、設置目的から外れない利用を確保しながらも利用者の幅を拡大するための仕組みづくりをご提案いたします。
- ・3年間で設定した「来館者無料の日」「市民無料の日」の入館者実績等をもとに、より多くの方に館を知っていただくための機会を新たに設けます。
- ・近隣類似施設との連携による共通割引や前売り券制度等の設定により、広報戦略と連動した利用者サービスを高めます。

### [3]事業の充実

美術博物館の主となる業務である「展覧会の開催」ならびに、「教育普及、その他講演会・講座等」を含めた幅広い来館者に対して実施する事業内容を充実させることは、当館を運営し、利用者拡大を図るためのなによりも大きな課題と言えます。

当グループは、指定管理者として平成 23 年度から管理運営をおこなう中で、コレクションに関する調査研究とともに3カ年連続して行ってきた「アートピクニック展」や「浮世絵名品展」など、新たな試みによる企画展を多数実施し、結果、多くの方にご来館いただくことができました。

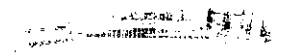
また、展覧会に関連するイベントやその他7カテゴリに亘る教育普及事業を実施し、幅広く市民・利用者に館を利用していただけの環境づくりと学習機会の提供に努めました。

しかし、ここまでの運営実績から得たデータは、良いお声が多いながらも今後に一層活かしていく検討材料も多く含まれていると自覚しております。開催展覧会・イベント毎に見ても集客数にはバラつきがあるため、各事業企画において都度分析・検討を行い、改善を図っていく必要があります。

これら事業の充実については別途「事業実施計画書」にて詳述いたします。



[ワークショップ]



[学習雑誌にみる子どもの歴史展]



[ギャラリーツアー]



## 2. 施設の運営計画書

### イ 広報強化について

どんなに市民の関心度の高い題材を扱い、貴重な作品を展示したとしても、その広報が行き届かなければ魅力は伝わりません。

当館は住宅地の中にあり、「アクセスが分かりにくい」とのご意見をよく頂きます。アクセス面の改善に関しては、道路看板の設置等、市とも協力し、より良い方策を今後も模索してまいります。当グループは3年間で取り組んだ広報強化策に加えて、様々な観点から更に「当館を知っていただく」努力を重ねてまいります。

開催される展覧会、イベントの内容に興味を持っていただくためにはあらゆる方の目に留まる魅力的な広報を、定期的かつタイムリーに発信し続けていく必要があります。

これまでの運営の中で見えてきた改善点とニーズに沿った新たな試みを取り入れながら、当館を芦屋市民の文化交流の場として広めていきます。

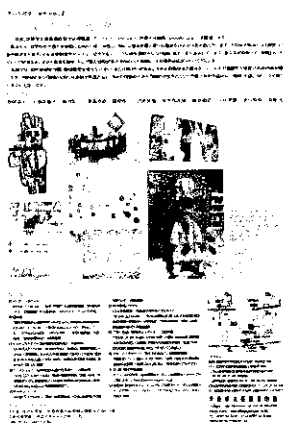
### 効果的かつ魅力的な広報物を作成します

チラシ、ポスターに関しては、美術博物館という特性も踏まえ、ビジュアルに訴える良質なデザインで、魅力的なものを作成します。また展覧会に付随して開催されるイベントの詳細等、必要な情報についてはタイトルサインにより内容が一目でわかるもの、知的好奇心・興味をかきたてるようなものを館内で検討し、作成いたします。

海外からの来館者が見込まれる事業については外国語版のチラシを作成し、設置・配布するなど、幅広いニーズに応えられる広報を引き続き行ってまいります。掲出には市内掲示板はもちろん、地域との信頼関係の中で商店等にお願したり、大型書店への掲出も行っております。



【平成24年度「呼吸する美術」展 チラシ】



【平成24年度「浮世絵名品展」英語版チラシ】

### "BLUE" that fascinated the world!

—Ukiyo-e Selections Exhibition

By Flower vase by Hokusai and Utamaro  
"Indigo Blue" by Sharaku

"Red and Blue" by Sharaku and Hiroshige  
Ukiyo-e that fascinated the world is the color blue. Many people not only in Japan but also in the West are fascinated by the color blue. In the 19th century, the "Blue" color of "Nishikie" was very popular. From the 19th century, the color blue has been used as a main color.

The exhibition of the Blue part from "Ochikubo Blue", "Blue to Indigo Blue" and finally "Indigo Blue" is the main part of the exhibition. Please enjoy the color blue.

**Event**

Ukiyo-e Selections Exhibition  
Date: April 27th - May 1st  
Venue: Ukiyo-e Museum  
Admission: Free (Donation)

**Ukiyo-e Selections Exhibition**  
To promote the awareness of Ukiyo-e, we will hold an exhibition of Ukiyo-e Selections Exhibition.

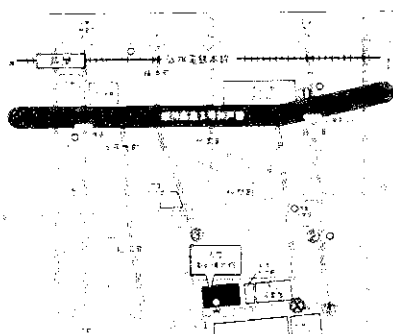
**Ukiyo-e Selections Exhibition**  
Ukiyo-e Selections Exhibition  
Date: April 27th - May 1st  
Venue: Ukiyo-e Museum  
Admission: Free (Donation)

また、ホームページに関しても、平成23年度のリニューアルに加え、展覧会情報は1カ月前までに、その他日々のニュースやイベント情報は都度アップし、タイムリーな情報更新に努めております。

そして、閲覧者が見やすいように、表記文字の大きさを変えられる設定をつけ、アクセスについても地図をリニューアルいたしました。さらに、「年間スケジュール」はダウンロードページを設け、手軽にご確認いただけるように整備いたしました。

今後は、現在整備中の英語ページをより一層充実させるとともに、「講義室・体験学習室などの利用施設情報」「図録等の通信販売情報」等のアピールを強化してまいります。

### 【リニューアルしたアクセスページ】



1：新大阪駅から約45分  
JR(新幹線):新大阪駅乗換  
阪急バス(29, 28, 32, 36):駅北側5番のりば一経町  
※お乗りの方はタクシー(約30分)をお勧めします。

2：新神戸駅から約45分  
神戸市営地下鉄:新神戸駅三宮  
阪神電鉄(特急):三宮駅乗換  
阪急バス(20, 26, 29, 31, 32, 36):駅南側5番のりば一経町

1：大阪方面からの場合  
国道4号堺線堺駅前の交差点(①)を左折→②目の信号(③)を左手にカーブ(神戸)を右折(一方通行)→交差点(④)を左折(一方通行)→交差点(左側)に美術館駐車場

※堺駅と芦屋市中央公園駅(⑤)を右折→⑥目の信号(⑦)を左手にカーブ(神戸)を右折(一方通行)→交差点(左側)に美術館駐車場

## 2. 施設の運営計画書

地域、マスコミ等への働きかけに、より力を入れてまいります

### [1]市民・地域団体等のご協力

事業実施をはじめとして、当館の運営には日々多くの市民、地域の方々にご支援いただいていることを強く感じております。

これまで、市にもご協力いただきながら地域と良好な関係を築き、社会教育団体、自治体、商工会、青年会議所、婦人会、市民センター、国際協力センター、観光協会等の団体、商店、市内の小・中学校にポスターの掲示、チラシの配布等の依頼を地道におこなってまいりました。市内掲示板・広報あしやにも随時掲出、掲載していただいております。これらの効果性は高く、最も多くの団体にご協力いただくことができた平成24年度「浮世絵名品展」では、これまで比べて芦屋市民の来館者割合が37%程度から47%まで増えました。



市民の中にも「今回はじめて美術博物館に来た」という声は多く、市の公の施設として地域との密接な関係の中で広報に励むことで、より一層来館者数を増やし、当館の存在意義を高めることになると考えております。

### [2]プレスへの露出

新聞社やテレビ局等、マスコミ関係による情報発信はタイムリー且つ大多数に対しておこなうことができるため、非常に大きな効果が期待されます。当グループはこの3年間の運営の中で各新聞社・テレビ局等とも関係性を構築し、プレスリリースはもちろんのこと、展覧会によっては開会式・記者説明会・記者観覧のための特別開館日設定を行い、記事として取り上げてもらいやすい情報発信に努めてまいりました。



今後も引き続き、露出媒体を増やすために後援によるご協力依頼や、積極的に興味を持っていただける形での情報発信、そして何より信頼関係の構築に努めてまいります。

#### 【新聞】

- ◆朝日新聞 ◆大阪日日新聞 ◆京都新聞 ◆神戸新聞
- ◆産経新聞 ◆日本経済新聞 ◆毎日新聞 ◆読売新聞
- ◆岩手日報 ◆伊勢新聞 ◆山陽新聞 ◆静岡新聞
- ◆山陰中央新報 ◆徳島新聞 ◆長崎新聞 ◆高知新聞
- ◆新日本海新聞 ◆宮崎日日新聞



【新聞掲載記事】

#### 【雑誌※フリーペーパー含む】

- ・SAVVY ・関西ウォーカー ・美術の窓 ・美術手帖 ・大人組 ・ギャラリーガイドブック
- ・月刊美術 ・美術屋百兵衛 ・ミーツリージョナル ・イグザミナ ・ソコト ・サライ
- ・ほんの窓 ・エクラ ・Richer ・阪神×南海 小旅手帖 ・KOBE C情報
- ・サンケイリビング ・アサヒファミリー
- ・山陽沿線行楽ごよみ・神戸ミントクラブ
- ・ウーマンライフ新聞 ・ザ・淀川 ・奥様手帳



【雑誌掲載記事】

#### 【ラジオ・テレビ】

- ・FM802 FlipLips
- ・ラジオ関西「時間です！林編集長」・ラジオ関西「歌声は風に乗って」
- ・朝日放送キャスト「キャストピ」・NHK神戸放送局「ニュース神戸発」・NHKデータ放送「関西おでかけガイド」
- ・ジェイコム「芦屋トライアングル」・サンテレビ

## 2. 施設の運営計画書

### 独自のネットワークを活かした広報を行います

当グループの持つネットワークを活用した情報発信を行ってまいります。

- 代表企業が運営する小学館の通信教育「ドラゼミ」会員への教材送付時には、地域セグメントした対象者へのチラシ封入を無料で行います。

ドラゼミ

- 学習教室「小学館アカデミー」は県内にも多数学習教室を展開しているため、子ども向けイベント実施の際にはチラシを設置・配付することができます。その他、保育施設も含めた数多くの登録講師・教育従事者にも情報を紹介します。



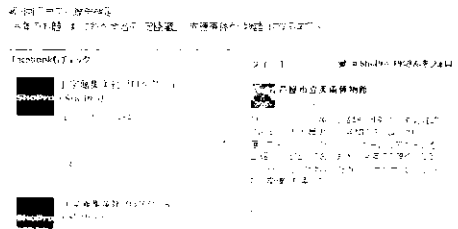
- 代表企業の関連企業である小学館、集英社の雑誌に展覧会の情報を掲載していただいた実績があります。

【通信教育会報誌】

- また、代表企業は全国に多数の指定管理受託施設の運営に携わっております。近隣施設や類似施設にてパンフレット・事業のチラシ・ポスターの設置しております。

- 小学館の社内報や、構成各社の社内誌「ShoPro News」、管理する分譲マンション入居者に年4回配布する「グローバルコミュニティ便り Hello Life」(約7万部発行)、学習教室・通信教育・保育サービス等の会員向け機関紙(約10万部発行)にて、施設の紹介記事を掲載することができます。

- 代表企業関連会社の運営する教室のサイト、フェイスブックなどに関連展覧会情報を掲載していただいた実績があります



【企業のツイッター・フェイスブックに掲載】



【Hello Lie 掲載記事】

### 新たな広報媒体・手法を開拓、活用します

#### [1] デジタル媒体の活用

平成24年度は新しい広報媒体として、駅や主要スポットでの電子掲示板等も検討した結果、主に芦屋以西地域を巡回するバスに設置された電子広告デジタルサイネージを活用しました。

バスや電車は、市民が日常的に利用する交通手段であり、10分以上の乗車時間の中で、媒体を目にする確率は非常に高いと言えます。

限られた予算の中で、計画的に駅張りポスター等の紙の広報物との組み合わせを検討し、より効果的に幅広い方々への情報発信に努めます。



【バスに設置されたデジタルサイネージ】

#### [2] デジタルプレスリリースの実施検討

従来の紙媒体でのプレスリリースに加えて、事業によってはデジタルプレスリリースを用います。これは、定期的に、施設で行う事業内容などのトピックを、各種メディア(新聞、雑誌、インターネットサイトなど)で取り上げられるように、代行会社を使って情報発信する方法です。当社の運営している「日比谷図書文化館」等の施設

## 2. 施設の運営計画書

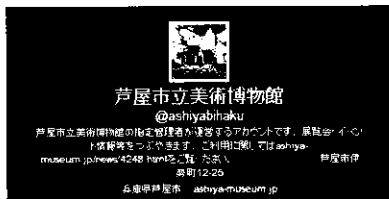
にて既の実施しており、一定の成果を上げています。

### [3] 新たなSNSの活用

ホームページを充実させるとともに、平成 24 年度からはツイッターも新たに開始し、一方的な広報ではなく双方向でのコミュニケーションを図っています。ただし、当館が公の施設であることを理解し、SNS の活用には一定の知識を得て、安全性を高めた運用を心がけております。

開設に当たっては当グループ代表企業の定めるソーシャルガイドラインに基づいて、本部スタッフが助言・指導をおこない、安全な情報管理を心がけています。

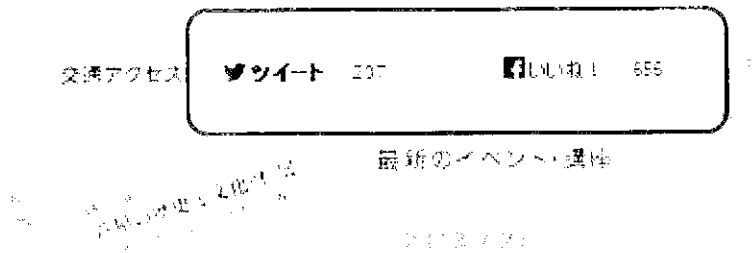
今後も同様の基準のクリアを経て、市の承認も得た上でフェイスブック、ユーチューブ、ユーストリーム等のソーシャルメディアの活用を行い、芦屋市立美術博物館の新たなファンを着実に増やしていきます。



ツイート

- 芦屋市立美術博物館  
【秋の芦屋アート・バザール出店者説明会】秋の芦屋アート・バザールの出店者説明会を本日開催いたします。詳細はこちら
- 芦屋市立美術博物館  
学習雑誌にあることもの歴史—10年間のタイムカプセル—我が家の学習雑誌
- 芦屋市立美術博物館  
学習雑誌にあることもの歴史—10年間のタイムカプセル—我が家の学習雑誌

【ツイッター画面】



【ホームページとのリンク、フェイスブックの「いいね！」ボタン設置】

## 2. 施設の運営計画書

### ② 連携について

当グループは、施設に関わる市・地域・関係団体等と良好な関係を築き、相互に協力・連携しあってこそ円滑な管理運営が可能になり、当館が「地域・市民にとってかけがえのない施設」になることができると考えております。これまで努めてきた信頼関係の構築、連携体制を大切にし、これからも更に強固にするべく尽力します。



【市内を巡るツアーの実施】

#### ア 芦屋市との連携

当館をお預かりし、管理運営を担う指定管理者として、芦屋市の方針に沿った運営に努めます。日ごろから市と「報告」「連絡」「相談」を行い、情報共有を徹底いたします。

- ① 市役所、文化ゾーン、市民センター、国際協力センターをはじめとした市内他施設とも協力し合い、当館の利用者に対しても市の他施設の情報について適切にお伝えできるよう努めます。
- ② 事業の実施等においては、規模や検討事項に応じて市と相談し、適切な館の使用に努めます。
- ③ 事故、事件、苦情等が発生した場合は速やかにご報告いたします。
- ④ 市の関係団体の主催事業(落語会、人形劇等)実施について、引き続き積極的にご協力いたします。
- ⑤ 市からの指示、指導があった場合は真摯に受け止め、迅速に改善いたします。
- ⑥ 市の管轄部署へモニタリングシート、事業報告書等を通じて定期的な報告を行います。



報告・連絡・相談  
※施設責任者と本部は常時情報を交換し、市からのご連絡に対応できるよう努めます。

施設責任者

指定管理者  
本部

#### イ 地域団体、地元商店、企業等との連携

市内はもちろん、地域を限定しないネットワークづくりをいたします。地域団体(芦屋婦人会・デイケア・カトレア会、芦屋ユネスコ協会・商工会議所・伊勢町自治会・伊勢町老年クラブ・芦屋市青年会議所・芦屋写真協会等)とはこれまでに築いた関係性を大切に、引き続き、広報面、事業実施面、安全管理面、その他管理運営に関わるすべてにおいてご支援をいただくべく、信頼関係の構築に努めます。

#### これまでの連携実績と今後の強化取り組み

- ◆ 景観美化のための自主的活動  
…当館管理に加え、歩道を含む植栽整備や市民ボランティアと協働した花壇管理を行っております。
- ◆ 広報活動・前売り券販売でのご協力  
…各地域団体にチラシの配布・ポスターの掲出、前売り券の販売等をご協力をお願いしております。
- ◆ 団体誘致  
…地域団体に観賞していただき、特別講演会、ギャラリートークを実施しております。
- ◆ 地域のイベント場所としての利用協力  
…青年会議所のイベント実施や、だんじりの休憩場所をご提供しました。今後も幅広く館を使っていただけるよう、館の設置目的をふまえた上でご協力します。
- ◆ 物品の貸出・借用  
…文化ゾーン他施設にイベント時の物品を貸し出したり、借用したりと、相互ご協力しております。  
また、芦屋神社には展覧会開催時にも物品をお貸しいただきました。
- ◆ 展覧会の協力実施  
…芦屋写真協会、芦屋神社には物品をお貸しいただくなど、展覧会開催に非常に大きなご協力を頂きました。  
また、市民センターで関連講座を行いました。
- ◆ 研修・訓練の実施  
…防犯訓練・救急訓練等、芦屋警察署、消防署にご指導いただいております。
- ◆ 協賛金・協力のご提供  
…展覧会開催にあたり、協賛金や物品提供をいただいております。
- ◆ ミュージアムカフェとの連携  
…展覧会毎にオリジナルメニューの開発をしていただいております。
- ◆ 文化ゾーンでの連携強化  
…共通したテーマでの連携企画実施や、避難訓練など安全面での協力を図ってまいります。



【カフェドルポとの連携メニュー】



## 2. 施設の運営計画書

### エ 類似施設・近隣施設との連携

他の施設との連携を強化することで、利用者の幅広い活動支援、職員のスキルアップに向けた情報交換や研修、また、安全管理の検討会や訓練、主催事業の充実化などに取り組みます。

#### 「他施設との連携実績と今後の強化取組能力」

- ◆ミュージアムエディケーター研修や文化庁の実施する研究会、美術館連絡協議会などに参加し、情報共有や各施設の相互案内などを行います。
- ◆事業によっては合同チラシを作成するなど、協力した広報活動の実施を検討します。
- ◆近隣美術館の作成する子どものためのコレクションブックの使用可能館として、協力実施いたします。今後もこういった取組を、他館とご協力、及び発信していく取組を検討します。
- ◆当グループ代表企業が運営受託している、全国の類似施設と運営手法やノウハウを共有します。
  - ・ 全国施設会議(年2回実施)や代表企業内での各種連絡会・研修などを通じて情報共有を図っていきます。
  - ・ 社内ネットワークを有効活用し、他施設の研修・指導内容や主催事業情報、広報の手段や安全管理対策などの情報を随時共有できるような体制づくりを図っています。

(例)加古川総合文化センターと連携企画  
「浮世絵を訪ねる」の実施など

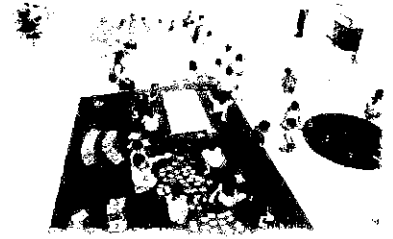


## 2. 施設の運営計画書

### ③ 経費削減について

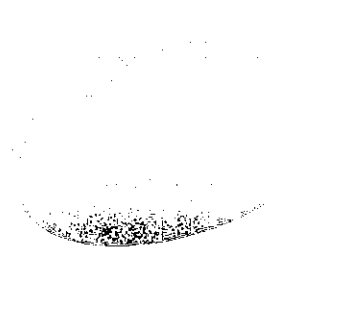

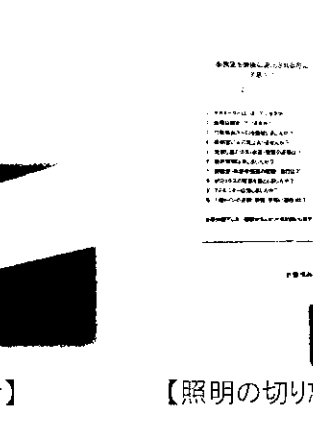
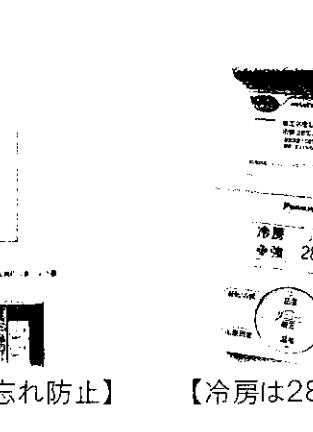
当グループ、施設職員はすべて、指定管理料が市民の税金であることを認識し、可能な限り無駄な経費の削減に取り組めます。ただし、利用者へのサービス提供水準と「安全・安心」のために必要な経費は十分に確保します。

また、同時に環境負荷の低減を目指し、省資源・省エネ等光熱水費の節減にも努めます。チェック機能として構成企業が参加して実施する経営会議の中でも重点課題として検討いたします。



【クールスポットとしての活用】

#### ア 経費削減のための具体的取組

 <p>全職員が「節約」に対して同じ意識で取り組み、裏紙の使用・不在時の消灯、書類等のペーパーレス化などに取り組めます。</p> <p><b>職員の意識徹底</b></p>	<p>収蔵品に影響しない場所の温度設定を適正に行います。</p> <p>夏季は子どもの居場所づくりの場としての活用を提案します。</p> <p><b>温度管理と有効利用による節電</b></p>	<p>発生する経費を相見積り積りのうえ、発注を一本化したコスト削減に努めます。</p> <p><b>発注の一元化によるコスト削減</b></p>
<p>広報のための郵送料は特別契約を結ぶ、発送会社を利用する、封筒を目的別に変える、館内で封入を行うなどの工夫をし、経費を抑えます。</p> <p><b>経費削減の工夫</b></p>	<p>広報のための紙チラシ・ポスターは目的・部数に応じて館内刷り用を作成し、対応するなど経費を抑えます。</p> <p><b>紙チラシ・ポスターの削減</b></p>	<p>連携をもとにした団体誘致、SNSによる広報など、経費の掛かりにくい広報戦略を図ります。</p> <p><b>連携による経費削減</b></p>
 <p><b>【照明の間引き】</b></p>	 <p><b>【照明の切り忘れ防止】</b></p>	 <p><b>【冷房は28度に設定】</b></p>